

株式会社ラッキーソフト

リハビリテーショントレーニングツール「TANO」

機器の概要

センサーの前に立つだけ体の動きがコントローラーに

センサーの前に立つだけで体の動きそのものがコントローラーとなり、運動・発声・脳活性化トレーニングが行える介護予防システムです。簡単操作で画面上に楽しいプログラムが広がるので、お子さまから高齢者まで、対象を限定せず、1人～複数人で実施・交流できます。

理学療法士等専門家の監修により、ゲーム性のあるプログラムを通じて、運動と意識せずに自然にリ

ハビリテーションに適した体の動きを行うことができます。また、ユーザーの要望・意見をプログラムに生かした結果、「んな運動がしたかった」と共感し、挑戦してみたくなる、楽しい製品です。

画面の前で動く動作は、窓を拭く動作や走る動作等、日常生活で行う自然な動きです。

「TANO」で運動することによって、手の可動域が広がった結果、洗濯物が干せるようになった、足上げ運動によりすり足が以前より上がるようになった等、生活の質の向上を目指しています。また、既存の運動動作にも運動することから、運動を楽しく継続する支援ツールとしても活用できます。



「TANO」イメージ

品番	TAN2017
TAISコード	01681-000003
概要	<p>【TANOセット内容】 液晶モニター、Kinectセンサー、制御システム（PC） 制御システム：システムをインストールした専用PC ※officeは未搭載 TANOプログラム：70種類以上の豊富な運動・発声・脳活性化トレーニングを内蔵 センサー検知エリア：0.5～8m（TANOプログラムによっては1～4m） 環境の条件：＜身長＞骨格表示プログラムでは身長100cm以上（推奨）</p>
寸法（mm）	<p>液晶モニター外形寸法：幅520×高さ335×奥行180 Kinectセンサー外形寸法：幅240×高さ40×奥行65</p>
制御システム	システムをインストールした専用PC ※officeは未搭載
消費電力	約70w
販売価格	<p>850,000円（希望小売価格・税別） ※サポート保守費用 別途36,000円/年 サポート保守内容：バージョンアップおよびソフトウェアに関するサポート</p>

問い合わせ先

株式会社ラッキーソフト
 〒254-0034 神奈川県平塚市宝町11-1
 平塚フジビル
 担当者：小島 宏美

HP <http://www.luckysoft.jp/>

TEL (0463) 23-7830

FAX (0463) 23-7833

mail kojima@luckysoft.jp

機器の導入事例

機器の導入施設

導入施設名

医療法人社団高伸会 伊豆高原メディカル温泉
リハビリテーションデイサービスセンター伊豆
高原倶楽部

所在地

〒413-0232 静岡県伊東市八幡野 1197-7

導入時期

平成 29 年 6 月

導入のための協力機関

湘南ロボケアセンター株式会社
(デモ機対応、機器販売、「TANO」運用方法の
勉強会主催)

が広がり、ピのスタッフでも簡単にできる」ことから、職員の負担軽減につながりました。今まではスケジュールに沿った「1日の流れ」がある画一的なデイサービスでしたが、「TANO」導入後、本日の流れ」を廃止し、あえて段取り無しの自由なスタイルにしました。スタッフの心理負担軽減にも役立ち、レクリエーションを「やらねばならない」から職員自身も前向きに「TANO（楽）」しんでいます。

午後のレクリエーションや理学療法士の機能訓練の時間に「TANO」を活用しています。

また、伊東市の介護予防・日常生活支援総合事業（以下、総合事業）の指定も受けており、3カ月間の利用プログラムの中に「TANO」も運動ツールとして組み込んでいます。

機器の設置状況・使用状況

デイサービスでの、運動やレクリエーションの時間に活用

同デイサービスセンターは20名の定員で、1日型デイサービスです。

開設当初は介護家族の負担軽減のための長時間預かりと、温泉がPRポイントでしたが、現在は機能訓練目的の短時間利用も受け入れています。

運動やレクリエーションを実施する時間に「TANO」を活用しています。

「TANO」導入前は利用回数の多い利用者のレク内容がかぶらないように、毎回工夫し、準備をすることが大変でした。

「TANO」導入後、体操やレクリエーションの幅



施設での機器の設置状況

機器の選定理由・導入経緯

医療だけでは支えきれない
高齢者の「自立度の底上げ」を目指す

2018年介護報酬改定では、自立支援や機能訓練を強化する議論があり、デイサービスの在り方が問われる過渡期に突入しています。

同デイサービスは、整形外科クリニックが母体法人であり、理学療法士も配置していることを強みとし、自立支援強化にシフトしようと考えました。デイサービスの理学療法士が理学療法士間のつながりからSNSで「TANO」の存在を知り、運動を楽しく支援するツールと自立支援がマッチすると考えました。母体法人のクリニック院長も、医療の過疎エリアである伊東市の現状を危惧していました。医療だけでは支えきれない高齢者の「自立度の底上げが必要」と考え、「TANO」の導入を決めました。平成29年6月から、健康増進目的のフィットネスも併設しました。同法人が目指す介護予防は、デイサービスで自立を支援し、介護保険サービスの卒業後、同デイサービスが伊東市から受託している総合事業や、併設しているフィットネス、クリニックで卒業後のサポートを行っていくことです。卒業後を見据え、デイサービスとフィットネスルームは通路でつながっており、双方が見学や行き来ができるようになっています。介護保険サービス～元気高齢者のフィットネスにおいても「TANO」は応用利用が可能のため、「TANO」に慣れた方々がステップアップしたご自分を感じながら「TANO」を継続できるのです。

機器の適用範囲・使用場面

使用目的を4タイプに分け 各々の目的に合わせて利用

70種類以上の豊富なプログラムが内蔵されているので、健康維持目的の元気高齢者から、ベッド上の方まで共に参加し、協力して実施できます。そのため伊東市の総合事業の対象となった虚弱高齢者や、要介護高齢者が利用しています。

理学療法士による機能訓練と「TANO」を組み合わせ、運動や運動の合間のお楽しみに「脳トレ」や「発声プログラム」も行っています。

● デイサービスの利用者

ゲームのように楽しい「さかなつり」や「福わらい」等、数人で楽しめる人気プログラムで盛り上がった後、利用者様の状態に応じたプログラムを実施しています



TANO プログラムの一例「福わらい」



TANO プログラムの一例「さかなつり」



TANO プログラムの一例「窓ふき」

● 伊東市総合事業の利用者

簡単な運動が可能な身体レベルなので、「怒ふき」「花火」反射神経」を運動プログラムとして実施しています。総合事業参加者は、何とかして身体機能を向上したいという意欲を持った方が多いので、参加当初「これが本当にリハビリなのか？」と半信半疑な方もいらっしゃいました。理学療法士がリハビリ効果を説明し、意味のある動きとして取り組んだ結果、参加回数が増すごとに「TANO」運動の得点も向上しました。体の機能が向上した証拠であるとフィードバックし、参加者の楽しさや達成感、自信につながりました。



TANO プログラムの一例「はなび手」



TANO プログラム
「とざん」の実施風景



TANO プログラム「カネカネ」の実施風景

リハビリの課題「いかに前向きに取り組めるか」に合致

● デイサービス管理者の声

他のデイサービスでは、レクの準備を前日から行い、介護負担になっている所もあります。「TANO」は誰でも簡単にすぐ準備ができ、いつ来ても楽しくレクリエーションや運動ができるのが良い。80～90歳代の利用者は「私にできるかしら？」と最初不安気でしたが、説明してできるようになると自信になり、参加者間のコミュニケーションツールとしても浸透してきました。利用者だけでなく、スタッフも楽しんでいるところを見てほしいです。きかなつりで長ぐつやタイヤ等の『ハズレ』を釣った時や、声で顔のパーツをピタっとはめる「福わらい」でタイミングが合わず変顔になると皆で笑って盛り上がります。できなくてもいいんだ」という逆の発想で楽しめます。

● 理学療法士の声

今後のリハビリテーションの課題「いかに前向きに取り組めるか」ということに「TANO」は合致します。スタッフができて、ロボットができてを住み分ければ、人手が必要な部分に注力できます。「TANO」はロボット・人の両方の潜在能力を引き出せるプラットフォームだと思います。皆がスマホを使っていることを考えれば、そんなに難しく考えずに自然に活用していけると思います。もっと面白い活用方法を考え、「TANO」のポテンシャルを引き出したいと思います。フィットネスでも「脳梗塞後の元気維持」痛みとつきあいながら楽しくフィットネス」等の対象者に「TANO」をコラボしていきたいです。

機器の導入による介護業務の変化

機器導入の効果

業務・配置要員の効率化に役立つ

今までは「家族支援のための長時間預かりと温泉入浴」がPRポイントでしたが、リハビリテーションの強化を図るデイサービスの宣伝になりました。「ケアマネジャーのモニター会」にて「TANO」を体験してもらったところ、面白いと好評で、温泉以外の魅力として紹介できました。特定のスタッフでなくとも誰でも簡単に操作ができるので、業務効率・配置要員の効率化に役立っています。将来的にはスタッフが常時つかずとも、利用者自身が操作する「自立化」も検討していきたいと理学療法士の方から意欲的なご意見もいただきました。支援の在り方のサポートにも効果を発揮できそうです。

改善点・要望

導入後も継続して楽しめる
仕組み作りが必要

認知症の方が多いので、骨格表示のプログラムは、画面に映っている骨格＝自分という認識が困難な方がおります。自力動作が困難な方、車いす乗車の方、認知症の方等、疾患や興味により、プログラムを選定し体験者の興味や能力を引き出すことが難しいこともあります。

今後「TANO トレーナー（仮称）」のように、「TANO」のデモンストレーションの盛り上げ方やプログラムの選定等、「TANO」をレクチャーする人材の育成が課題です。応用利用等、機器導入後も継続して楽しめる仕組み作りを検討していきたいと思えます。